

平成 27 年度「オリンピック・パラリンピック教育モデル推進校」 事業実施報告書

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
 II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
 III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
 IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
 V 児童生徒オリンピック、パラリンピックを通じた国際理解教育の推進

実践事業	【 I 】	I～Vを記入して下さい。	
学校名	京都市立高倉小学校	全校生徒数	685名
実践学年、部、講座等	第4学年 115名		
目 標 (ねらい)	オリンピズムの観点(○印) <重複可>	友情 ()	卓越 () 尊重 (○)
	夢や希望をもって、健やかな体をつくるとともにスポーツに親しむ子どもの育成		
実践内容	<p>1 児童の実態と課題</p> <p>本校の体力テストの結果や日常の生活調べの中から、運動経験の不足や運動量の確保が課題となっていることから、子どもたちの体力向上・健康保持増進の取組が必要であると考えた。全校で日常の体力づくりの取組をすすめていく一方、今回は本事業で第4学年でトップアスリートによる出前授業と継続した助言により、効果を検証したいと考えた。</p> <p>2 実施内容</p> <p>(1) 運動プログラム（NOBY体操のDVDによる事前指導）の提供 (2) 出前授業によるポイントレッスン (3) ICTを用いた走力測定</p> <p>3 指導の経過</p> <p>11月13日（金）大阪ガス専門コーチ派遣による運動プログラムの解説と出前授業。長期の宿題として体幹トレーニングのポイント指導あり。</p> <p>11月18日（水）パナソニックかけっこ測定システムによる走力測定。 12月15日（水）元オリンピック選手朝原宣治氏を招いての出前授業と宿題の診断解説・ポイントレッスンをを行う。 大阪ガスによる体づくりに欠かせない食育授業も並行し</p>		

て行う。運動と食事についての理解を深める。
 (保護者参観も含め、家庭への理解をはかった。)



1月以降 体幹トレーニングのプログラムを継続し、次年度に、走力計測および全国新体力テストにより数値的検証を行う。

実施上の留意点等

- 実態と課題に基づいて、本校の体力向上の取組の一環として本事業を位置づけるとともに、専門家としてのトップアスリートや元オリンピック選手を招聘することにより、児童の意欲や指導者のモチベーションを向上させるようにした。
- 対象になった学年のみならず、全校に波及できるように取組のモデルを一般化できるように校内体制で周知した。
- 単発の出前授業に終わることのないように、継続した指導の一環としてとらえられるように、講師との打ち合わせを十分に行い、運動の習慣が身に付くように事前・事後のフォローを考慮してもらったり、DVDによる動画の反転学習を用いたり、ビデオレターによるコメントなどICTを活用し、より有効に児童に印象づけられるようにした。
- 学校だよりやHPにより授業案内や地域や家庭にも発信し、意識の共有をはかるようにした。

主な成果
 (分析結果)

- オリンピック選手を身近に感じられるようになり、オリンピックにも興味を示すようになった。
- NOBY体操(体幹トレーニングプログラム)を指導してもらったことで、体を動かすことに対する意欲が高まったとともに、体を動かすポイントを理解することができた。
- アスリートを講師に複数回の指導を受けることで体操を継続して行い習慣化をはかることにつながった。
- 運動を苦手とする児童も、本事業によるプログラムを受けることで、体を動かすことに関心もてるようになり、運動経験の少ない児童にとっても、体を動かす機会を増や契機になった。自分の体や生命を尊重することにもつながることを理解する機会になった。
- 体力向上への効果として数値的な検証については、次年度にまたがって経過をみたいと考えている。

	<ul style="list-style-type: none"> • 学校運営協議会の体力向上部会と連携することで、家庭や地域への理解を深めることにもつながった。
<p>主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 実践直後は意欲が高まるが、その意欲をどう持続させるかが課題であると考えている。講師とともに、継続的な運動の習慣として根付かせ、モチベーションを持続させていくための方策も考えていきたい。 • 継続的に取組を続けていくために、どのように時間を確保していくかも含め、校内体制や学校運営協議会でも検討をすすめていきたい。